2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
経営学部 国際ビジネス学科	教授	佐々木 裕美
最終学歴	学　位	専門分野
愛知淑徳大学大学院文学研究科博士後期課程 単位取得満期退学	修士	米文学

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

「学生が主役」をクレドとして、学生一人ひとりが４年間の大学生活を自分でプロデュースするための教育活動を行っている。

（目標）

担当科目（英語）のクラスでは、学生が語学学習に求められる「我慢強く真面目にコツコツ」を理解し、結果を実感できるように手助けする。

演習のクラスでは、各学生が自分で勉強に取り組む理由と方法を見つけて、地道に続けられるよう、支援する。特に、それぞれが目的をもって大学生活に取り組むことを尊重する。

（方針）

知識を与えることよりも、むしろ知識を「身につけて使える」ことを重視する。

（計画）

学生の学びが深まるノートの取り方を伝えつつ、目的をもって学修に取り組める方法を提供していく。どの場面においても、学生が自分自身で課題を見つけ、その解決方法を考えて子実践することを重視した授業を心がける。より具体的には、Study Skills の獲得を意識し、個々の学生の学びをノートに書くことを通して支援する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

文学、英語基礎Ⅰ、アメリカの文化と社会、English Test PrepⅠ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ

（後期）

文学、英語Ⅱ、英語基礎ⅡA、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ

○教育方法の実践

ノートの取り方を伝えて、90 分の授業を通して学んだこと、そこから使えることを明確に書いたり、発表したりすることを実践した。

○作成した教科書・教材

高校生交換留学試験対策問題集-1-，-2-，-3-の改訂版作成

○自己評価

概ね目標を計画通りに達成した。学生一人ひとりが自分自身の目標を設定することを通して、学びがより具体的に実践できるものになるよう心掛けた。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

アメリカ文学研究・アメリカ地域研究

○目標・計画

（目標）

継続中のフォークナーの文学研究、Scott Heidepriem の著書の翻訳、先住民族の現状、アメリカ社会の課題から、アプローチできるものに着手する。

（計画）

今年度はアメリカ出張を予定し、資料集めに専念する。

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

（学術論文）

（学会発表）

・佐々木裕美「『野生の棕櫚』における囚われの身と自由の身―シャーロットに向けられる視線を通して―」　日本アメリカ文学会第 35 回中部支部大会　（2018 年 4 月 21 日、愛知大学名古屋キャンパス）

・Tomomi Sasaki and Yuumi Sasaki, “ELTiS Workshop: Needs, Efforts and Outcome”　JALT 43rd Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition ポスター発表（2017 年 11 月 19 日、Tsukuba International Congress Center エポカルつくば）

・Laura Ebel and Yuumi Sasaki, “Integration of an American School on a Traditional Japanese Campus”　大学英語教育学会（JACET）第 43 回（2016 年度）サマーセミナー　ポスターセッション（2016 年 8 月 18－19 日、京都大学吉田南キャンパス）

（特許）

（その他）

・日本アメリカ文学会中部支部 2019 年度 12 月ワークショップ『And Then They Came For Us』司会・コーディネーター（2019 年 12 月 7 日、南山大学）

・日本アメリカ文学会中部支部 2016 年度 12 月読書会『Ta-Nehisi Coates, Between the World and Me (2015)司会・コーディネーター（2016 年 12 月 10 日、愛知大学名古屋キャンパス）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

アメリカ学会、日本アメリカ文学会・同中部支部、日本ウィリアム・フォークナー協会、愛知淑徳大学大学院英文学会

○自己評価

達成できなかった。漸く渡米が可能となり、ワシントン D.C.においては資料収集を行うことができたが、予定していたサウスダコタ州の Scott Heidepriem および先住民族代表との面談は、先方と

の予定が合わず行うことができなかった。その意味で執筆に必要な十分な資料収集ができなかった。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

①経営学部執行部の構成員としての職務遂行

②教務委員会の構成員としての職務遂行

（計画）

①は経営学部長のもと、②は教務委員長のもとで、必要とされる職務を遂行する。

○学内委員等

教務委員会、

○自己評価

求められる職務を遂行し、概ね目標を達成した。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

AFS 日本協会の異文化学習プログラムのファシリテータとしての技量向上

高校生留学支援および国際交流の推進

（計画）

アメリカ留学を目指す高校生のための交換留学試験（ELTiS）対策講座が、米国国務省のグラントに採択されたので、2021 年 8 月から 2022 年 8 月までの講座を予定通り実施する。

○学会活動等

日本アメリカ文学会中部支部幹事、愛知淑徳大学大学院英文学会会計

○地域連携・社会貢献等

米国国務省のグラントに採択された「アメリカ留学を希望する高校生のための交換留学試験のワークショップ」を予定通り実施した。

○自己評価

概ね目標を達成した。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

創立者の「３つの言葉」を肝に銘じ、学生が「オンリーワン」を自覚して、自信をもって社会に出ていくことができるよう、仕事に取り組む。健康に留意し、教育活動および大学運営に貢献する所存である。

Ⅵ　総括

教育活動、大学運営、社会貢献については、概ね目標を達成した。特に、ノートテイキングを重

視した授業内活動を通して、どの授業においても、各学生が学びを「身につける」ことを意識した。Covid-19 の影響もあって研究活動の比重が大幅に減ったが、他の活動を通して建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人材の育成」への貢献度は増したと自負している。

以　上